

勝海舟記念館 企画展

オランダ イギリス

海舟と蘭英

～海軍伝習にみる外国交流～



2026年3月13日(金)～8月16日(日)

ギャラリートーク 4月18日(土)・7月12日(日) 14時～

大田区立 勝海舟記念館

Ota City Katsu Kaishu Memorial Museum

- 開館時間 午前10時～午後6時
※毎週月曜(祝日の場合は翌日)休館
6月1日(月)・2日(火)は一部展示替えのため休館
- 入館料 一般300円、小中学生100円(各種割引有り)
- 所在地 東京都大田区南千束2-3-1
- 電話 03-6425-7608



※グッズやイベント等の最新情報は、右二次元コードからホームページをご覧ください。



オランダ イギリス

海舟と蘭英

勝海舟記念館 企画展

～ 海軍伝習 にみる 外国交流 ～

2026年3月13日(金)～8月16日(日) ※6月1日(月)、2日(火) は一部展示入替のため休館

ペリー来航後、海軍力強化の必要に迫られた江戸幕府は、安政2(1855)年にオランダの支援を受けて長崎海軍伝習所を設けました。勝海舟は開国以前から蘭学に取り組んでいましたが、伝習生として外国人から本格的な西洋式海軍技術を学んだのは、ここでの経験が初めてでした。

その後、咸臨丸での渡米経験を経て、日本国内の融和を果たすために海軍の振興が不可欠であると考えた海舟は、自らが海軍を指導する立場となっていきます。幕府瓦解の年である慶応3(1867)年に江戸で従事することとなったのは、海軍伝習掛としてイギリス人海軍教師を招き、幕府海軍の増強を図り、成就させることでした。

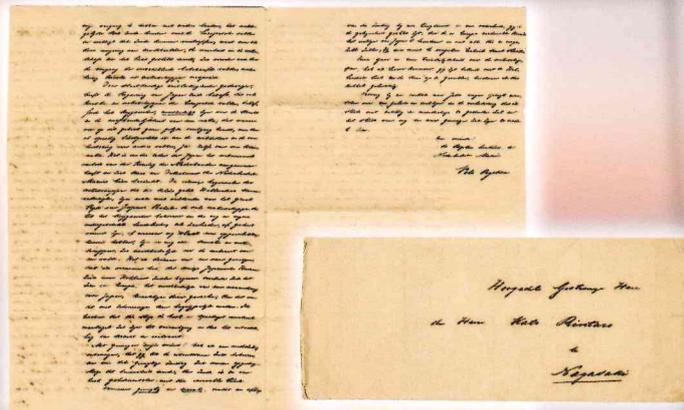
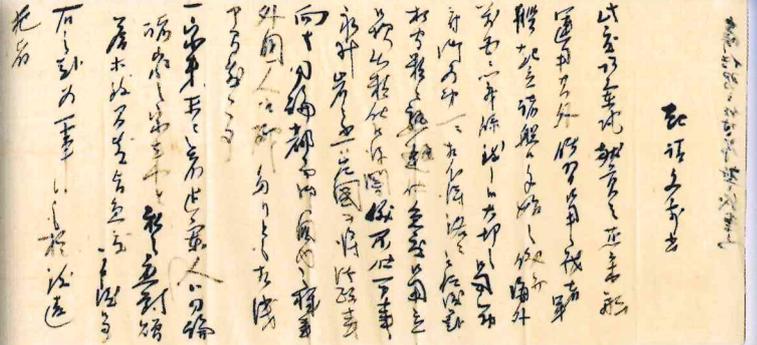
本展では、長崎と江戸での海軍伝習に関する資料等から、海舟が果たした役割やオランダ・イギリスとの関係性を紐解き、同時に、海舟が国際的知見を備えるに至った経緯の一端を詳解します。

1

海軍伝習への決意

長崎海軍伝習所が、日本の海軍創立の基礎となり海外万国に関係する大切な事業であることを認識した海舟は、生徒に選抜された際に誓いを立てました。この時の決意が記された起請文前書を初公開します。

勝海舟起請文前書〔案〕安政2(1855)年→



2

オランダから諸学を学ぶ

海舟は長崎でオランダ人教師団と親しく交わり、操船技術のほか海外の情勢等も伝聞しました。第1次教師団長のペルス・ライケン海舟の学識を称え、日本人の性質を“優美で好学”と評しました。

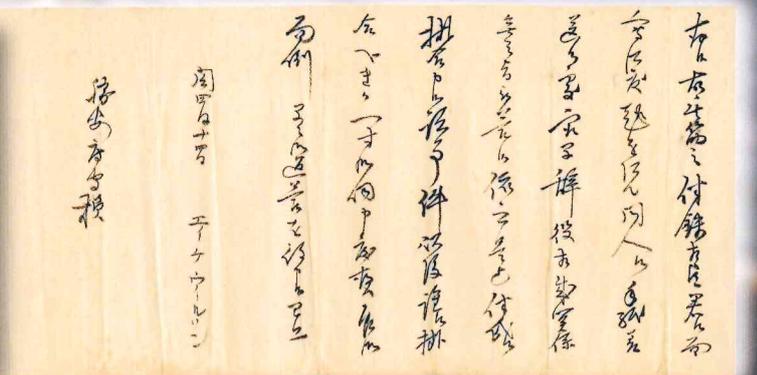
← ペルス・ライケン書簡〈勝海舟宛〉1857年2月28日付

3

イギリスとの駆け引き

江戸での海軍伝習に関する業務により、イギリスの軍事・政治的な人脈を得た海舟。イギリスから徳川方の重要人物と目されるようになった海舟は、この人脈を活かして交流し、戊辰の難局に立ち向かいました。

A.K.ウィルソン書簡〈勝海舟宛〉和解(部分)→慶応4(1868)年間4月14日付



ギャラリートーク 4月18日(土)・7月12日(日) 14時～ 予約不要